

紛争後社会における地域流通の実態

ーコンゴ民主共和国東部州を事例にー

平成 25 年入学

派遣先国:コンゴ民主共和国

高村 伸吾

キーワード: 紛争後社会, 河川交易, 内発的发展

対象とする問題の概要

コンゴ民主共和国(以下コンゴ)は 1998 年の第二次コンゴ戦争により急激な社会的経済的変動に晒された。紛争は橋・道路などの流通インフラを破壊し,地域経済を支えたトラックによる陸上輸送は大きな打撃をうけた(写真 1)。橋の崩落を受けてトラックでの農産物買付けは中絶し,コーヒーなど換金作物の販売に依存していた農村部の経済活動は停滞を余儀なくされている(木村,安岡,古市 2010)。

農村住民は,トラック仲買の中絶に対して,自ら長距離の徒歩交易に従事することで対応している。彼らは獣肉や干し魚などの地域産品を背負い,森林地帯を二週間以上に渡って移動することでかろうじて都市への販路を保つ(写真 2)。しかし,徒歩で輸送できる重量は限られ,また徒歩交易には過酷な労働負担が伴うため,地域経済への貢献は限定的だ。紛争からの復興を実現するためには都市と農村をつなぐ流通活動をいかに回復するのかという課題が存在している。



写真 1 崩落した橋



写真 2 徒歩交易に従事する人々

研究目的

本研究の目的は、コンゴ東部州における今日の流通実態を明らかにすることである。先述したように紛争からの復興には域内流通をいかに回復するのかという課題がある。しかし、反政府勢力による襲撃が頻発する東部州において、紛争後の流通実態に関する調査報告すらほとんど存在していない。都市と農村はどのような商業実践を経て結ばれているのか、臨地調査を通じた流通の実態把握が必要とされる。以上を明らかにするため、本研究では伝統的に商品流通を生業としてきた交易民ロケレに帯同し調査を行った。ロケレの商業実践を参与観察し、農村から流入する地域産品がどう都市へと移出されるのか、また州都キサンガニから工業製品がどのように農村部へ供給されるのか、紛争後社会における流通の全体像を描こうと試みた。

フィールドワークから得られた知見

現地調査の結果、今日東部州の流通は河川を経由した定期市を通じてなされていることが明らかになった。紛争により陸上輸送網が荒廃したコンゴにおいて、今日河川沿いの定期市が新たな中心地として地域流通を支えている。

農村部の生産者は各々の地域産品を定期市へと輸送する。彼らは米やヤシ油などの農産物を仲買商に販売することで現金を得る。ロケレをはじめとする零細商人は、定期市にて農産物を仲買・集荷し、消費地である都市へと輸送している(写真 3)。コンゴ河沿いに居住するロケレは河川交通のノウハウを有しており(Russell 1991)、大量の農産物を丸木舟に積み込み、消費地である都市へと供給する。陸上輸送が荒廃した東部州において唯一河川のみが都市と農村を結ぶ経路を提供しており、河川沿いの定期市では活発な商業活動が観察された。



写真 3 農産物仲買



写真 4 都市への移出

また、定期市は工業製品の配給という機能も担っている。隣国ウガンダから陸路を通じて流入する工業製品は州都キサンガニを経て河川沿いの定期市へと供給される。零細商人はキサンガニにて工業製品の仕入れを行い、商品をバリニエとよばれる定期船によって下流の定期市へと輸送する(写真 5)。零細商人は定期船を活用することで都市と農村を結ぶ。工業製品は商人の手で周辺の定期市にて販売・配給される。零細商人の活発

な商業活動を通じて河川沿いの定期市には多様な商品が集散する。市場にはテレビやラジオなどの電化製品をはじめ、金属製の屋根材、衣服など様々な工業製品が売買される(写真 6)。地域住民は農産物の売却によって得た現金からこうした工業製品を購入し農村へと持ち帰る。



写真 5 定期船



写真 6 市場の様子

以上を要約すると図のようになる(図 1)。今日の地域流通は農村住民による徒歩移動と零細商人による河川交易によって支えられている。陸上輸送が荒廃したコンゴ東部では河川のみが商品の長距離大量輸送を実現する経路となる。河川沿いの定期市は農村の地域産品と都市の工業製品の交換を促す結節点となり、経済活動の自生的な発展が生じていることが明らかになった。

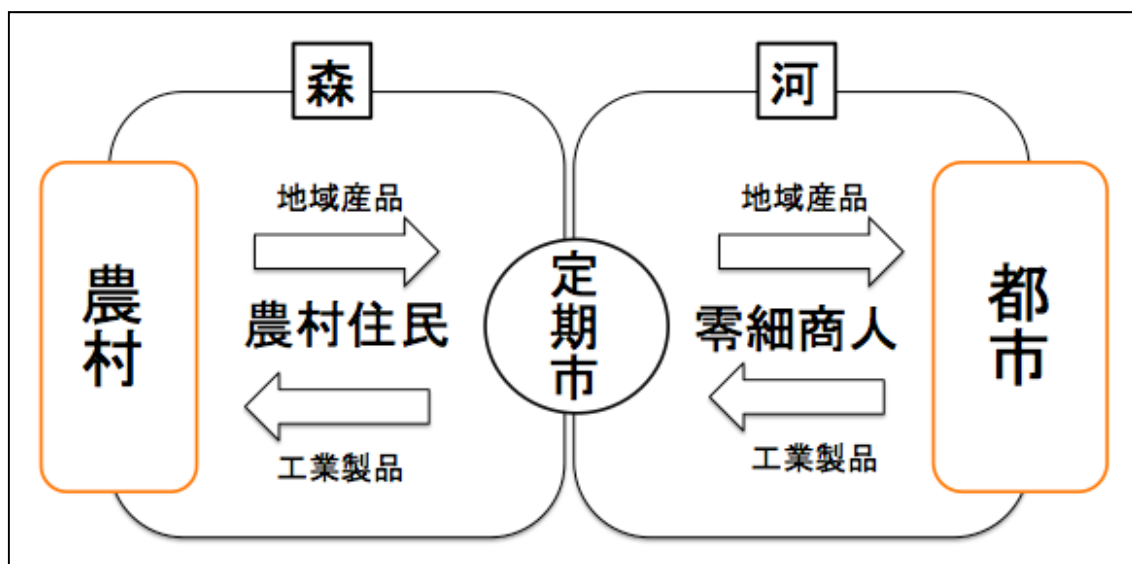


図 1 地域流通のモデル図

今後の展開・反省点

本調査を通じて紛争後社会における都市農村間の商品流通の全体像を描くことができた。紛争という急激な社会変動に対し、人々は丸木舟や定期船などの水上輸送を活用することで対応している。こうした今日の流通の在り方が地域経済の回復をもたらすものなのか、今後は零細商人の生計にまで踏み込んだ調査を実施したい。MacGaffey(1987)が述べたようにコンゴ商人は地域経済を牽引・発展させる主体となりうるのか追跡調査を行っていく。また、十分な調査を行うことができなかった内陸地域の定期市の機能について併せて調査を行う。河川を経て流入する商品が内陸地域にどのように流通しているのか、地域経済の中心地である定期市の機能を明らかにした上で、中長期的には紛争後の社会をいかに回復するのかという課題に取り組んでいきたい。

引用文献

- 木村大治, 安岡宏和, 古市剛史(2010)「コンゴ民主共和国・ワンバにおけるタンパク質獲得活動の変遷」木村大治, 北西功一(編)『森棲みの生態誌ーアフリカ熱帯林の人・自然・歴史 I』京都大学学術出版会, pp.333-351
- MacGaffey, J. 1987. *Entrepreneurs and Parasites: The struggle for Indigenous Capitalism in Zaire*. Cambridge University Press, New York.
- Russell, D. 1991. *Food supply and the state: The history and social organization of the rice trade in Kisangani, Zaire*. Ph. D. dissertation, Boston University.